

健全な水環境の創造へ向けた地域住民の意識調査

長崎大学工学部 学生会員 ○星野須美香 長崎大学工学部 フェロー 野口正人
長崎大学大学院 学生会員 菊竹加良子 長崎大学工学部 正会員 川池健司

1. はじめに

近年、「潤いある街づくり」といった表現をよく耳にするが、平成9年の河川法改正により、河川整備において治水、利水、環境の諸問題を調和させ、「健全な水環境」を実現することが重要となっている。長崎県の二級河川である川棚川においても、現在「川棚川水系河川整備計画」の作成が進行中である。しかし、河川整備において治水、利水、環境の諸問題を調和させた施策を講じることは難しく、産官学民が連携した河川整備を行なうことが求められている。本研究では、住民と行政がより連携した河川整備を進めていくために、川棚川の流域住民の意識調査を実施し、河川整備に対する住民意識の現状を把握することを目的とした。

2. アンケートの調査方法

川棚川流域である川棚町、波佐見町を調査対象とした。配布方法としては対象地域に研究室の学生10人を配置することにより各世帯を個別訪問し、アンケート用紙を配布した。回収方法として返信用封筒による郵送方式をとった。

3. 回収状況

アンケートは波佐見町229部、川棚町175部、計404部を配布した結果、最終的に238部回収できた。(回収率: 58.9%) 性別、年齢別に回収状況を図-1、図-2に示す。多くの方に回答していただいたが、女性、若い方からの十分な回答を得ることができなかった。今後、女性やこれからの世代を担う若い方にももっと関心を持ってもらうことが重要となる。

4. 結果とその考察

4-1. 「川棚川水系河川整備計画」の認識

「川棚川水系河川整備計画」について、その内容を少しでも聞かれたことがあるかという質問の結果、「知っている」が川棚町で47%、波佐見町で32%と住民に密接に関係することであるにもかかわらず、認知度が低かった。結果を図-3に示す。

4-2. 治水対策への意識

洪水防止・軽減策として何が良いかをハード面とソフト面から質問した。ハード面(図-4)では「堤防補強」と回答する人が多かった。これは、人工的な構造物を増やさず、今の河道を維持したままの治水対策をしたほうが良いと考える人が多いと考えられる。また、川棚町に関しては「ダム」と答えた人が波佐見町の約2倍と多く、石木ダムへの関心の高さを窺わせた。

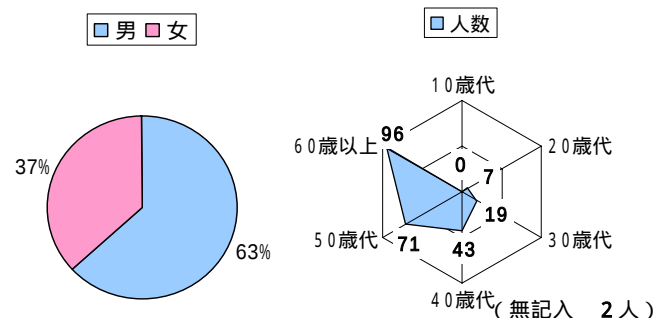


図-1 性別による分類

図-2 年齢別による分類

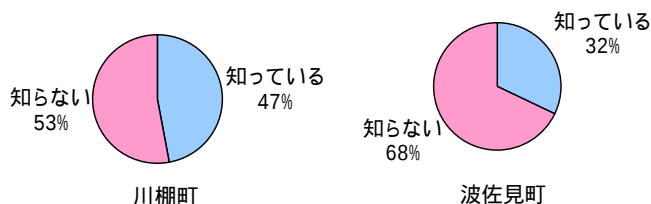


図-3 「川棚川水系河川整備計画」の認識

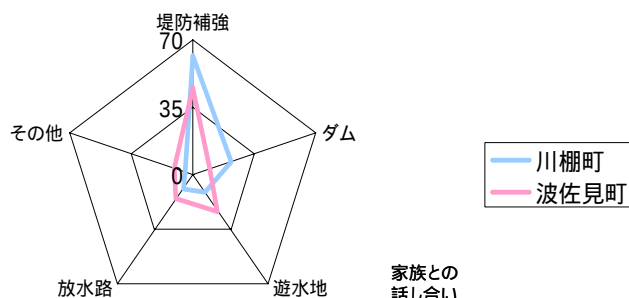


図-4 ハード面対策

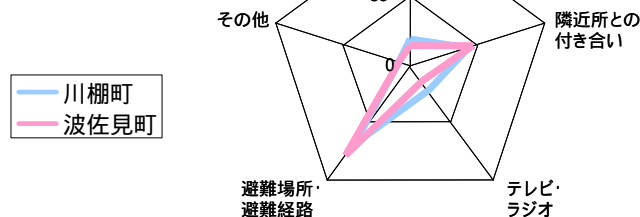


図-5 ソフト面対策

ソフト面（図-5）では「避難場所・避難経路」が一番多かった。このことはそれぞれの町、行政の努力もあり、住民が避難場所・避難経路を周知し、重視した結果と考えられる。それに対して家族との話し合いが少なかったのは、重要なことであるが住民が当り前に思い回答しなかったものと推察される。

4-2. 水質・景観への意識

住民の水質と景観に対する意識は反対の傾向を示している。景観に関してはきれいで恵まれていると感じている人が32%、水質に関しては汚いと感じている人が39%であった。これは、今の川棚川は自然に恵まれている一方で、上流域の波佐見町から流出している窯業関係の汚濁や全流域から流出する生活排水が問題視されていると言える。（図-6）

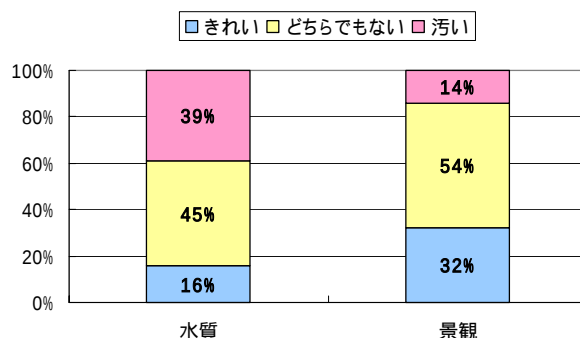


図-6 水質と景観の比較

4-3. 「波佐見中央浄化センター」の認識

波佐見中央浄化センターの認識度を検討するため、自由記述式で回答を求めた。その結果、住民の方には長崎では珍しい高度処理センターであることが十分に周知されていないことがわかった。機能についてもっとはっきり公表すれば今以上にすばらしい働きが期待できると考えられる。また、波佐見町ではその対象地域の拡大を望む声や、水使用量の増加、利用料金の高さを訴える声があった。一方、下流の川棚町では水道水として利用しているが排泄物の浄化であり気持ちが悪いといった回答が複数存在した。汚水の垂れ流しより下水処理の方がよいのはわかりつつも、処理水の河川放流に抵抗感が在ることがわかる。

4-4. 健全な水環境に対する意識

健全な水環境を実現するために何に重点的に取り組むべきかという住民の意識を知るため、自由記述式で回答を求めた。回答を治水、利水、生態系ほか、水質、その他で大きくわけた結果、図-7のようになった。その他には、住民の意識向上をあげる声がいくつかあった。最近、環境への十分な配慮が強く叫ばれているが、ここで示された結果もそれらの社会状況を反映したものと考えている。

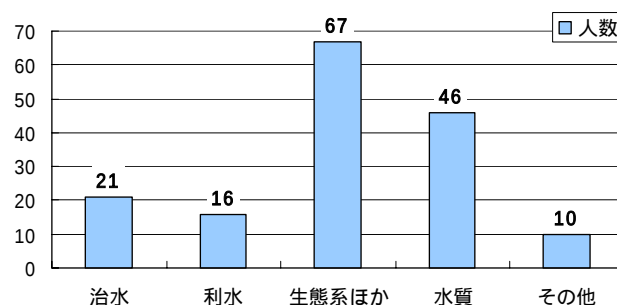


図-7 望ましい水環境に対する意識

5. アンケート報告会

平成17年12月18日（日）に各町でアンケート報告会を開催した。「健全な水環境を目指して～『川棚川についてのアンケート』調査結果報告会」と題し、大学側からアンケート結果の報告に加え、世界の水辺について、面源汚濁とその削減方策について話題提供し、住民の方と共に意見を交わした。参加者の数は宣伝不足等により十分な数ではなかったが、「今後、本当に住民の意見を取り入れた整備がなされるのだろうか」「地域の川については地域住民が関心をもつ事が一番大事だと思います」などといった地域住民の川棚川に対する率直な意見を得ることができた。このような意見を今後の活動に活かし、健全な水環境を目指してこれからもこのような住民に向けての継続的な話題提供を行なっていくことが重要となる。

6. おわりに

今回の調査によって河川に対する住民の認識度、関心度、思入れを明らかにすることで、河川整備に対する住民意識の現状を把握することができた。住民と行政がより連携した河川整備が進めるためには、住民と共に河川への関心を高める取り組みを講じなければならない。その一環として、川棚川流域の住民に向けて継続的な情報発信、話題提供等の活動を大学側から続けて進めていく予定である。